



小島 智恵
議員
(拓政会)

問 今回は3・11東日本大震災を受けて、全国平均や道府県別の成績も集計しないことになったが、北海道では札幌市を除くすべての市町村の児童生徒が参加。

教委や各学校は、結果を活用した教育政策や基礎学力の向上に一層の努力が求められている。以下、伺う。

①本町の児童生徒の学力は、全道平均値に比べどのような傾向にあるか。

②「学力向上」に向けた課題と教育施策や支援。

③過去の成果と課題を受けて現場での教育指導の充実や学習状況の改善にどう活かしているか。

④教師の指導力向上に向けての取り組みは。

教育長 ①小中学校の国語と小学校の算数A、中学校の算数A、中学校の数学とともに、全道平均を

問 学力テストをどう活かす
指導方法等の改善と外部人材の活用
を行う

上回った。

②「基礎的・基本的な学習内容の定着を図ること」、「学習意欲の向上を図ること」、「学習の習慣化や基本的な生活習慣の定着と徹底」を進めることが必要と考えている。

また、推進員や支援員を配置し適切な教育的支援を行っている。

③職員会議や校内研修の場において共通理解を図りながら指導方法の工夫など具体的な改善策等について取り組みを進めている。

④各種研修会への参加促進、校内研修の奨励と支援を行っている。

問 武道必修化による安全確保は大丈夫か
答 複数の教師で指導にあたり安全確保を図る

問 平成24年から中学校での新学習指導要領の完全実施を

目前にして、必修の武道・ダンスを安全かつ円滑に実施できるよう、

手厚い支援が必要。以下、伺う。

①各学校の武道種目の選択状況と選択理由。

②柔道では、過去に事故が相次いで発生し安全面を危惧する声も聞かれる。指導者不足（大学では武道の専攻が少ない）と安全確保は。

③用具、武道場の条件整備は。

教育長 ①柔道を選択したのが4校、剣道を選択したのが1校で、柔道の選択については、「施設・設備の面から取り組みが容易なため」「指導ができる」などによる。

剣道の選択については、「近くに柔道場がない」「剣道の方がけがが少ない」などとなっている。

②講習会や説明会への参加、練習場の安全の確認、生徒の健康状態の把握、受け身の指導の徹底、絞めわざ・関節わざなどの禁止、複数の教師での指導などに留意しながら安全面の確保を図る。

③生徒数の柔道着の上着と帯、剣

道の防具6組と竹刀21本を教育委員会で購入し配備した。武道場では受け身や立ちわざの指導を主とすることになっている。

再質問 ①習熟度別授業を導入する考えは。

②大外刈り等の危険な技を禁止する自治体もあるが、本町の考えは。

答 ①できれば習熟度別の学習を算数・数学の中で進めていきたいと思っている。

②指導要領は、基本的に大綱を示すものであり、子供たちの健康状態や、体力の状況等によって、各学校が判断すべきものであると思っている。



札幌北小3年生授業参観日の様子